

新型コロナウイルス (COVID-19) に対する映像制作ガイドライン

第1版

株式会社オニオン

本ガイドで示された対策例等は全ての状況に適したものであることを保証しておらず、実際の対策を限定・拘束するものではありません。実際の対策の選択に当たっては新しい情報の入手、個々の事案・状況・情勢を十分に把握し業務を遂行致します。

基本方針

5月25日に、新型コロナウイルスの「緊急事態宣言」が全国で解除されました。しかし、感染による影響はまだまだ長期化することが想定されており、今後も感染リスクが格段に高まるといわれる3密（密集、密接、密閉）の環境を作らないようにすることが、重要な対策となることに変わりありません。制作過程に於いて多数の人間が集まり長時間に渡る「3密」の環境を防ぐことで、制作業務従事者の感染リスクを高めないように、心がけてまいります。

基本的な対策

- ・社員全員に対し、通勤や入社時における人との接触を少なくするため時差出勤、自宅でのリモートワークを推奨する。
- ・社内でのみ作業ができる業務（社内サーバへのアクセスなど）や、書類の処理などやむをえず出社を必要とする場合は、マスク着用を義務付け、入社時には手洗い、消毒を行う。
- ・対面打ち合わせ、立会を要する業務に対し、参加スタッフ人数を必要最小限（代表者1、2名）にとどめる。
- ・作業の簡略化、効率化につとめ、各作業場所において長時間滞在を避ける。
- ・フィジカルディスタンス（2m以上）を確保することを意識する。
- ・定期的な健康状態のチェック（検温/体調確認）を各自で行い、異常があった際には速やかな報告を徹底する。また同様のことを、案件関係スタッフに開始前に呼びかけ、異常があった際の報告義務を課するようにする。
- ・建物や会議室の入室前には、手指の消毒と検温ならびに体調確認を行う。
- ・平常時よりも確認などの時間を要することや、不測の事態に備えるため、余裕を持ったスケジューリングを心がけ、エージェンシー皆様へのご協力もお願いする。

I 企画プレゼン / 演出コンテ / 各種撮影打ち合わせ

企画打合せ～プレゼン作業

基本的には、ビデオ通話アプリ（ZOOM / Meet / Teams 等）を利用したりリモートでの打ち合わせ参加、および各種画面共有アプリケーションを利用した資料・ビデオコンテチェックを推奨します。
但し、皆様からのご要望やチェック内容に合わせて、密集を避けながらの対面での対応も行っていきます。

演出コンテ打合せ～各種撮影打合せ

〈演出コンテ発注 および提案〉

ビデオ通話アプリで行う。クリエイティブスタッフやディレクターのやむを得ない要望に応じて、対面で実施。

〈各種スタッフ打ち合わせ〉

ビデオ通話アプリで行うことを基本とする。

〈オールスタッフ打ち合わせ〉

ビデオ通話アプリで行うことを基本とする。止むを得ず対面で行う場合は、各部の参加者を1名までとし、広い会議室にて間隔をとって実施する。

I オーディション / テスト撮影 / スタッフロケハン

キャストオーディション

- ・オニオン社内にて行うことを基本とする。オーディションルームでの立会いは制作部1名までとし、ビデオ会議アプリやライブ配信ツールを利用することで、ディレクターやその他クリエイティブスタッフの立ち会いは控えるようにする。
- ・対面オーディション参加人数を抑えるため、事前の書類選考を必須とし、精度の高い選考につとめる。
- ・オーディション参加者の待機場所は1F ラウンジスペースとし、各テーブル1名の着席（保護者がいる場合は2名）を限度とする。
- ・1時間内に召集する人数を最大10名（5名×2）までとし、待機場所の密集を避ける。
- ・社屋入口に検温・消毒スペースを設け、参加者に義務付ける。検温の結果37.0以上の熱がある参加者はその場で辞退いただくことを基本とする。

テスト撮影

- ・会議室内でのテスト撮影は行うことを極力避け、1F ラウンジスペースなどのオープンスペースで行う。
- ・各部 最小人数参加にとどめ、カメラリモートプレビューを利用して遠隔での参加につとめる。
- ・撮影日（PPM）からの逆算で余裕を持ったテスト撮影日程を定め、各所への確認・検証の時間を設けるようにする。

スタッフロケハン

- ・移動用車両（マイクロバス / コミューター）が密集してしまうため、基本的には現地集合解散、スタッフ自走を促すようにする。乗り合わせはドライバー含め最大5名までとする。
- ・各部の参加人数は止むを得ない場合をのぞき、1名までとする。ロケハン時に収録した写真や動画を事後共有することで 部署内シェアを行う。決まったロケ地に対する助手スタッフの現場確認などは怠らず、当日の不測の事態を避けるために積極的に実施する。

I 撮影本番

撮影環境の整備

〈撮影現場への入場者管理を徹底します〉

- ・ 入り口での検温の実施、体温と共に名簿への記入要請。
撮影現場での注意事項の確認（マスク着脱やフィジカルディスタンスなど）。
- ・ 消毒液による手消毒および現場設備（テーブルや椅子など）への定期的な消毒。
- ・ 手洗い呼びかけ。
- ・ マスク着用の義務付け。
- ・ 可能な限り現場の換気を行う。

撮影動員人数について

〈人数を最小限に抑えます〉

- ・ 各部署の入り時間をなるべくずらし、同時並行での作業を避ける。
- ・ 一度に現場に入る人数を減らすよう心がける。場所の広さによって2mの間隔を空けられる人数に制限する。
- ・ 待機スタッフは、なるべく現場外での待機を心がける。

モニタープレビュー環境について

- ・ 撮影現場とは別の部屋、もしくは扉で隔てられた外部スペースにて場所を設けます。
- ・ 撮影現場は他の行程に比べ相対的に密集エリアとなるので、撮影現場の立ち会いをいただかない【リモートプレビュー】も積極的に活用していきます。
※具体的な方法はケースに応じて提案させていただきますので、弊社担当にお問い合わせください。

機材管理について

〈建物内に持ち込む荷物・機材は、最小限にするよう努めます〉

- ・ 撮影に支障のない範囲で、可能な限りビニール手袋などを着用して機材を使用する。
- ・ 専属スタッフ以外はむやみに触れることをしないよう、専属スタッフ側からの声かけをお願いします。
- ・ スタッフ用チェックモニターは平常時より2〜3台多く用意し、分散してモニターチェックできる環境を整える。

撮影日前後の対応について

- ・ 撮影帯同スタッフについて、撮影日一週間前以内、および後に体調に異変がないか確認をします。
- ・ 同行スタッフに体調異変、体温などの健康状況の報告を義務付けます。
- ・ 事前に異常が確認できた際には、速やかに別スタッフを立て、直近一週間を遡り体調の確認をした上で撮影に同行します。
- ・ 事後に異常が確認できた際には、罹患者の居住地指定の保健所の指示に従い対応をとるとともに、検査によって感染が確認できた際には、速やかに全関係者に通達をする。

I 編集

オフライン編集

- ・ディレクターとエディターと協議をし、リモート編集チェックも視野に入れてオフライン編集を進める。
 - ・立会いでの編集を行う場合は、広い部屋を使用し、立会者の距離をあけて行う。
 - ・クリエイティブチェック、クライアント試写については、ネットワークを通じた個々のPCへのリモート試写を推奨する。
- 立会い希望の場合は、参加人数に応じ、十分な間隔を取れる試写部屋が用意できることを条件に実施する。
- ※リモート試写の方法については各担当へお問い合わせください。

編集・MA（初号試写）

- ・本編集、MAには共通のモニター、スピーカーでのチェックが必須となるため、ディレクターのクリエイティブチェックは基本的に立会いを推奨する。
- ・クリエイティブチェック、クライアント試写については、ネットワークを通じた個々のPCへのリモート試写を推奨し、リモート試写が技術的に実施できるポスプロを積極的に活用する。
- ・クライアントの特別な強い要望など、状況に応じた試写体勢を整えるよう、試写方法については事前に協議をしっかりと行う。